

山城高校サッカー部の歩み

山城17回 山崎 和男

戦後の学制改革により公立新制高校が発足したのが昭和二十三年四月。僅か六ヶ月後に居住区別（地域制）の男女共学総合制の新しい山城高校は京三中の校舎を引き継ぎ再編された。その時サッカー部は誕生した。

それ以前の昭和二十三年四月三年生の担任をされていた竹内京一先生がクラスの生徒（京三中最後の入学生）を集めてボールを蹴り始められたが間もなく新制度となり、彼等は当該する学校へ分散していった。彼らの中には山城高併設中学三年生でサッカー部の創部のときに参加した林映さん（四回）らがおられた。

創部当時は物資不足の頃でボールは継ぎ接ぎだらけが二、三個、新しいボールは貴重品。ゴールは生木や竹を荒縄や針金でしばりつけて作られたそうです。ユニフォームやシューズなどまともなものを身につけているものは皆無とか。

創部に尽力され、その後もサッカー部とともに歩んでこられたのが森貞男さん（二回）で母校の教員として三十二年間も在

職され校長で退職されました。

昭和二十五年四月社会科の教員として赴任された村山康裕先生（故人）に顧問を引き受けてもらってから強いチームへと発展していった。

陸上競技で活躍されていた村山先生の情熱がサッカー部に注入され、創部三年目にして近畿大会へ京都代表として出場、翌年には京都で初優勝し西日本大会へ。更に二十七年には国体初出場（京滋代表）三十二年の国体では天覧試合の名誉を授かり、その勢いは創部十年目にして全国高校選手権大会で初優勝を成し遂げた。三十五年には三年生で主将の古川勝己さん（十三回、同大サッカー部総監督）、二年生には二村昭雄さん（十四回、サッカー部OB会長）一年生に釜本邦茂さん（十五回、日本サッカー協会副会長）らを擁し国体で初優勝、その後も輝かしい戦績を挙げてきた。

全国大会優勝二回、準優勝二回、ベスト四、二回。全国大会出場三十四回を数え、多くのＪリーガーを輩出してきた。また少年団や小中高、社会人などでサッカーの普及発展に貢献している指導者も多い。

平成十年には創部五十周年記念の会を盛大に挙げてまいりました。OB会は「会員相互の親睦と現役の発展に寄与する」を目的に邁進して行きます。